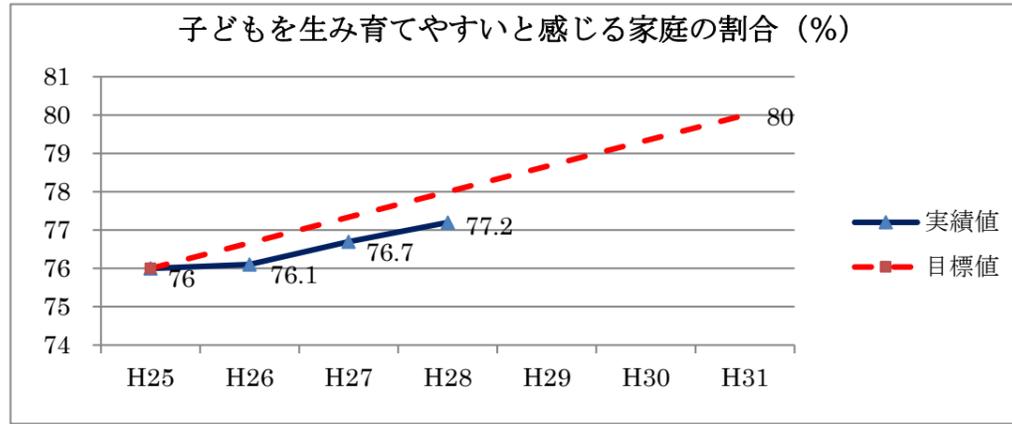


総合戦略Ⅱ ～地方創生の実現に向けた千葉づくり～
 (3) “それぞれの結婚・出産・子育ての希望” がかなう千葉づくり

若い世代の結婚・子育ての希望を実現し、子どもたちが心身ともに健やかに生まれ育つためには、妊娠・出産・子育てに係る多様なニーズに応じて、誰もが安心して子どもを生み、育てられる環境をつくることが重要である。このため、妊娠・出産から子どもの自立までを総合的に支援するとともに、若い世代の経済的な安定を確保することにより、少子化の流れに歯止めをかけ、次代の千葉を担う子どもたちの成長を支える。

【数値目標の動向】



【28年度の主な取組】

- 若い世代の経済基盤の確保と子育てに係る経済的負担の軽減を図るため、「ジョブカフェちば」において、カウンセリングや各種セミナーを実施するとともに、併設のハローワークと連携して、若年者を対象とした総合的な就業支援サービスを実施しました。
- 子どもの保健対策の充実及び保護者の経済的負担の軽減を図るため、子ども医療費に対する助成を実施しました。
- スマートフォンアプリ「ちば My Style Diary」によりライフステージに応じた情報提供を行ったほか、大学生等に対し、妊娠・出産に関する知識を普及するセミナーを開催するなど、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援体制の推進に取り組みました。
- 「安心こども基金」等の活用や県単独の上乗せ補助制度により民間保育所の施設整備を支援し、保育所等の定員数増加に取り組みました。
- 市町村が実施する延長保育や病児保育、一時預かり事業等に対し助成を行い、地域のニーズに応じたきめ細かい保育サービスの提供を促進しました。
- ワーク・ライフ・バランスの理解を広めるため、有識者による講演や企業における事例発表等を開催し、意識啓発を図りました。
- 第2期教育振興基本計画に基づき、「ちばっ子『学力向上』総合プラン」に沿って、放課後の補習学習や学習支援を行う「学習サポーター」の派遣の拡充などを推進しました。

【要因・状況分析】

- ジョブカフェちばの就職決定者数の減少要因として、雇用情勢の改善やITの活用など就労手段の多様化により、利用者が減少していることが考えられます。
- 都市部を中心に、住宅整備による子育て世代の人口流入や経済情勢等により就労を希望する保護者が増えていることから、依然として待機児童が生じています。
- 少子高齢化が進行する中で、仕事と家庭の両立を目指し、人々の働き方が多様化してきています。

【課題】

- 雇用情勢は改善しているものの、若年者については、他の年代に比べて失業率の割合が高い、本意非正規雇用の割合が高い、早期離職率が高いなどの状況が見られることから、正規雇用求人の開拓や、利用者（求職者・中小企業）の希望や状況に応じたサービスを充実させる必要があります。
- 全ての市町村が妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を実施できるよう、子育て包括支援センターの設置を支援していくことが必要です。
- 待機児童の解消に向けて、民間保育所や認定こども園などの施設整備を促進するとともに、保育士の確保に向けた処遇改善や潜在保育士の復職支援を推進する必要があります。
- 仕事と家庭の両立を目指す「多様な働き方を選択できる社会」の実現には、ワーク・ライフ・バランスに対する理解を深めることが必要です。
- 学習サポーターが効果的に活動できる環境づくりに努めることなどにより、学習指導の更なる充実を図る必要があります。

【取組方針】

- 若者による企業研究や企業と求職者のマッチングイベントなどを通じて、正規雇用の拡大、雇用のミスマッチの解消による定着率の向上など、若者の雇用環境の改善に努めます。
- 子ども医療費の助成を継続します。
- 「ちば My Style Diary」の運用・改良を行うほか、妊娠・出産期に関する知識に加え、子育て期に関する様々な知識を普及するセミナーを開催します。また、子育て世代包括支援センターの整備促進を図り、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援体制を推進します。
- 保育所等の整備による保育サービスを拡充するほか、小規模保育事業や家庭的保育事業などの地域型保育事業を推進し、待機児童の減少に努めます。
- 保育士の確保については、29年度に民間保育士の処遇改善に係る県独自の補助制度を創設しました。また、引き続き、保育士試験の2回実施や保育士養成施設への支援、修学資金等貸付事業などを実施するとともに、「ちば保育士・保育所支援センター」において、潜在保育士等の就職の斡旋などを行い、県内保育所等への就職を促進していきます。
- ワーク・ライフ・バランスに対する理解を一層深めるため、企業経営者等に効果的な広報を行うとともに、セミナー参加者の増加を図ります。
- 「学習サポーター連絡協議会」を開催し、効果的な運用について情報交換等を行うことなどにより、学習指導の更なる充実を図ります。

【KPIの動向】

- ①若い世代の経済基盤の確保と子育てに係る経済的負担の軽減
 - ア 若者の正規雇用の促進
 - イ 子育てに要する経済的負担の軽減

○ジョブカフェちばを通じた就職決定者数

基準値	直近値	目標値
4,771人 (26年度)	2,988人 (28年度)	増加を目指す (31年度)

②妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援

- ア 結婚から子育てまでの間の一貫した支援
- イ 自らが望むライフデザイン設計の意識醸成
- ウ 妊娠に関する支援
- エ 地域医療体制の整備
- オ 保育等の子育て支援体制の整備
- カ 保育人材等の確保と資質の向上
- キ 子どもの保健対策に関する支援
- ク 企業・地域による支援体制の構築
- ケ 家庭教育への支援
- コ 子どもや家庭に対する相談支援体制の充実

○新生児死亡率・小児死亡率（人口10万人当たり）

基準値	直近値	目標値
1.0・0.23人 (25年度)	1.1・0.25人 (27年度)	減少を目指す (31年度)

○保育所等待機児童数

基準値	直近値	目標値
1,646人 (H27.4.1)	1,787人 (H29.4.1)	解消を目指す (H31.4.1)

③働きながら生み育てやすい環境づくり

- ア ワーク・ライフ・バランスの推進
- イ 事業所内保育の促進
- ウ 男女が協力して子育てできる環境づくり
- エ 女性が活躍しやすい環境づくり

○社員いきいき！元気な会社宣言企業登録数

基準値	直近値	目標値
570社 (26年度)	652社 (28年度)	800社 (31年度)

○職場において育児休業がとりやすいと感じる人の割合

基準値	直近値	目標値
男性 18.8% 女性 45.5% (26年度)	— (28年度)	増加を目指す (31年度)

④千葉に愛着を持ち、地域や世界で活躍できる子どもの育成

- ア 地域を愛し地域を支える人材の育成
- イ すべての子どもたちが質の高い教育を受けられる環境づくり
- ウ 学校の魅力の向上と改革の更なる推進
- エ 学校における多様な教育活動を支援する体制づくり
- オ グローバル人材の育成

○学校評価における保護者アンケートにおいて、「学習指導」に関する項目について「満足」「おおむね満足」と回答した保護者の割合

基準値	直近値	目標値
80.6% (26年度)	80.7% (28年度)	増加を目指す (31年)